

## ティーチング・ポートフォリオ

幼児教育学科 竹内 啓

(記入日：2020年9月26日)

### 1 教育の責任（何をやっているか：担当科目）

保育内容の理解と方法（造形）（1年通年 教職選択科目、保育士必修科目 2単位 演習）

幼児造形指導法（3,4年前期 教職、保育士選択必修科目 2単位 演習）

図画工作Ⅱ(2)（3,4年後期 教科、保育士選択必修科目 2位 演習）

表現（2年 前期 教職必修科目、保育士選択科目 2位 講義）

幼児教育体験学習（1年 通年 必修科目 2位 演習）

卒業研究演習（3年 通年 必修科目 4位 演習）

卒業研究（4年 通年 必修科目 2位 演習）

日本文化実技V(1)（1～4年 後期 1単位 演習）

日本文化実技V(2)（1～4年 後期 1単位 演習）

### 2 理念（なぜやっているか：教育目標）

将来、保育者になる学生が五感で感じとったことを自ら発想し考えて表現し行動できるようになる。「子どもと共に生きることができる自覚ある保育者」、「全てのくひと・もの・こと」に感謝できる保育者」となれるよう援助、指導する。

### 3 方法（どのようにやっているか：実践の工夫）

実際に自分の目で観察し、発見したものを大切に自信を持って表現できるよう一人一人の状況に合わせて丁寧にアドバイスしてく。本年度前期はTeamsを利用した遠隔授業を行った。毎回、課題の内容と資料のファイルやパワーポイントを配信した上で説明を行った。学生は説明を聞いて、各自で必要な材料、用具を準備し制作等の作業を行い、その結果を写真、レポートにしてOneDriveに送信して提出した。質問、意見受付、提出課題へのフィードバックもTeams上で行った。

### 4 成果（どうだったか：結果と評価）

説明や資料はオンラインで一人一人に平等に伝えることができた。質問等もオンライン上の会話、チャット、メールで行った。制作等の作業は自分の空間で自分のペースで行えたが、他の学生の進行状況を見てペースを合わせたり、参考にしたりすること、グループ活動で相談しながら共同作品を作る協働ができなかった。ただしOneDriveに提出されたものは他の学生も見ても参考にすることができた。一人一人の学生に合わせての指導はオンライン上の会話、チャット、メールである程度行うことができたが、対面のように直接手にとって、作業

内容を確認しながら細部まで指導することは難しかった。

#### 5 今後の目標（これからどうするか）

本年度後期の授業は対面で行うため、前期で十分できなかった一人一人の学生への直接、課題を目の前にしての指導を、きめ細かく行う。また、グループ活動による他の学生との共同制作など協働をウィルス感染防止に十分配慮しつつ行う。また準備物の連絡、意見交換、課題の提出、保管には Teams や OneDrive も活用していく。

#### 6 エビデンスとなるもの（資料の種類などの名称）

- ①授業ごとに配布した資料（非公開）
- ②提出した課題（非公開）
- ③学生による授業評価アンケート
- ④提出した課題作品を集めたスケッチブック

## ティーチング・ポートフォリオ

幼児教育学科 近藤千草

(記入日：2020年9月8日)

### 1 教育の責任（何をやっているか：担当科目）

幼稚園教諭一種免許状及び保育士資格取得に係る科目、及び学科科目を担当している。

#### <資格・免許に係る科目>

教職入門（1 前期 教職必修科目 2 位 講義）

保育原理（1 前期 保育士必修科目 2 位 講義）

保育内容の理解と方法（児童文化）（1 前期 保育士必修科目 2 位 講義）

保育の計画と評価（2 前期 保育士必修科目 2 位 講義）

保育内容健康の指導法（2 前期 教職必修科目 2 位 演習）

児童文化（3 後期 選択科目 2 位 講義）

幼児指導法総論（3 後期 選択科目 2 位 講義）

教育実習演習（事前・事後指導）（3 後期 教職必修科目 1 位 演習）

教育実習演習（事前・事後指導）（4 前期 教職必修科目 1 位 演習）

保育・教職実践演習（幼稚園）（4 後期 教職・保育士必修科目 2 位 演習）

教育実習演習（事前事後指導）（4 集中 教職必修科目 児童教育学科 1 位 演習）

実習訪問

#### <学科科目>

幼児教育体験学習（1 通年 必修科目 2 位 演習）

卒業研究演習（3 通年 必修科目 4 位 演習）

卒業研究（4 通年 必修科目 2 位 演習）

### 2 理念（なぜやっているか：教育目標）

本学科の目指す「子どもと共に生きることができる自覚ある保育者」、「全てのくひと・もの・こと」に感謝できる保育者」という保育者像を念頭に置き、保育・幼児教育の基礎的事項の理解を図るなかで、保育者としての心構えや子どもに対する愛情、専門的な支援のあり方や技術など、多角的な視点で幼児教育を捉え、実践に結びつけることができる保育者を養成するための教育活動を行っている。

### 3 方法（どのようにやっているか：実践の工夫）

保育・幼児教育の基礎的な科目については、幼稚園教育要領等の根拠法を基にした内容や方法の理解促進を図ることが基本となる。また、基礎的事項を抑えた上で、保育のイメージ化が図れるよう、子どもの心身に即した援助のあり方を検討する必要がある。本年度前期は、

新型コロナ感染拡大による遠隔授業となり、対面での授業が不可能となった。しかし、保育・幼児教育の学びとして、先に述べた理論的な基礎事項を十分に押さえた上で、保育における援助のあり方をイメージ化できる学びが重要と考える。そこで、前期科目では、理論の基礎資料を作成し、資料を読みながらキーワードを入れ、ポイントをつかむことができるような資料となるよう配慮して、毎月ごとに資料を学生宅へ郵送した。各自の学修が主となるため、内容の確認のためにオンライン授業において解説する時間も設定し、質疑応答も行えるよう配慮した。資料での学修からオンライン学修へと二段階を踏んだことにより、学生からは理解が深まったという声もあった。

また、基礎理論を基に実践的な学びを取り入れるよう配慮した。「保育の計画と評価」及び「教育実習（事前・事後指導）」では、指導計画案の作成、「保育内容の理解と方法（児童文化）」では、パネルシアターの作成、「保育原理」及び「教職入門」では、保育の事例を提示し、保育者としてどのような援助をしたいか、その根拠はどこにあるのかなど、保育を具体的に考えることができるような資料を提示し、考えを記入できるワークシート作りに工夫を重ねた。作成した指導案や作品作成過程の学びについてはフィードバックし、後期の科目学修につなげることを考えている。

#### 4 成果（どうだったか：結果と評価）

ワークシートにキーワードを書き込み、資料を熟読しながら学修を進める方法と、実践としての指導案や作品の製作を行った結果、詳細な部分に関しての質問が寄せられた。質問は、学生が資料を読み込んだり、作業を進めることにより生じるものであり、学修の成果と考えることができる。質問に対しては、クラス全員で共有できるよう、Teams を活用し、質問と回答を提示した。口頭による説明ではなかったため、理解が得られるか不安を感じていたが、授業の進行と共に、Teams でのメールやオンラインにおいて理解の確認ができ、有効活用することができるツールであることを学ぶことができた。しかし、ツールの動作が不得手であると、指示が不明瞭になったり、フィードバックが遅くなることも考えられ、コロナの時代に対応できる ITC 技術力の向上も必要だと実感した。

#### 5 今後の目標（これからどうするか）

保育・幼児教育に関する法令が改訂されてから3年が経過し、保育の実践結果も次々と報告されている。そこで、授業においては、最新の動向を示しながら具体的に考察することができるように工夫をしていくことが求められる。時にDVDを用いて、子どもや保育者の姿を提示したり、最新のテキストを用いて事例から援助の仕方を分析したり、自らの考えを文字化して表現できるような総合的な学びを提供できるように工夫していきたい。

後期は対面授業となるが、三密を避けることに配慮しながら行う授業となり、これまでのような学生同士が直に関わる学びのスタイルを取ることは難しい。そこで、密を避けながら

も、自己の考えを表出し、他者の考えを受容して、学びを深めていくことができるような工夫を考えたい。ICT の活用もその一つだと思われる。ワード、エクセル、パワーポイント等でまとめた資料を共有したり、前期同様に Teams を活用していくことも有効な手段と考える。多様な教科と調整を図りながら、学生が科目の性質に応じた多様な教授方法に触れられるように授業内容や方法を工夫していきたいと考える。

## 6 エビデンスとなるもの（資料の種類などの名称）

①授業ごとに配布する資料及びワークシート（非公開）

②授業における最終課題（非公開）

③学生による授業評価アンケート

④テキスト 木村美幸編，2017，『幼稚園教育要領＜平成 29 年告示＞』，フレーベル館  
木村美幸編，2017，『保育所保育指針＜平成 29 年告示＞』，フレーベル館  
木村美幸編，2017，『幼保連携型認定こども園教育・保育要領＜平成 29 年告示＞』，フレーベル館

## ティーチング・ポートフォリオ

江村綾野（幼児教育学科）

（記入日：2020年9月1日）

### 1 教育の責任（何をやっているか：担当科目）

乳児保育Ⅰ（1年後期選択必修科目2単位）、乳児保育Ⅱ（2年前期選択必修科目2単位）、保育相談支援（3年後期選択必修科目2単位）、保育教職実践演習（幼稚園）（4年後期選択必修科目2単位）、保育内容演習（3）（3・4年前期選択必修科目2単位）、保育実習演習Ⅰ（事前事後指導）（2年後期選択必修科目1単位）、保育実習Ⅰ（2年後期選択必修科目2単位）、保育実習演習Ⅲ（事前事後指導）（3年選択必修科目1単位）、保育実習Ⅲ（3年選択必修科目2単位）、卒業研究演習（3年必修科目2単位）、卒業研究（4年必修科目4単位）、幼児教育体験学習（1年集中必修科目2単位）

### 2 理念（なぜやっているか：教育目標）

私の教育理念・目標は、以下の2点である。

- ①学生が幼児教育・保育に関する専門的知識と実践力を身に付けること
- ②学生が大学内外のヒト・モノ・コト（全ての環境）に自立的に関わり、一人の人間として、女性として、保育者として感謝する心と態度を身に付けること

### 3 方法（どのようにやっているか：実践の工夫）

- ①授業においては、学生の主体的能動的な授業参加を促すためにアクティブラーニングを取り入れている
- ②保育現場に則した教材（テキスト、視聴覚教材、保育教材、児童文化財など）を用意している

### 4 成果（どうだったか：結果と評価）

授業においては、講義→演習（ワークシートなど）→振り返りの循環が確認できた（エビデンス1）。新カリキュラムに即した教材（エビデンス2）を使用している。今年度前期のオンライン授業においては、teamsの課題提出機能により学生へのフィードバックとそれに対する質問等が促されたと思われる。

### 5 今後の目標（これからどうするか）

個々の学生の学修到達状況をふまえた課題内容を工夫したい。

6 エビデンスとなるもの（資料の種類などの名称）

1 リアクションノート（非公開）

2 テキスト 乳児保育Ⅰ、乳児保育Ⅱ、保育相談支援、保育内容演習（3）、保育実習演習Ⅰ（事前事後）、保育実習演習Ⅲ（事前事後）で使用

1. 教育の責任（何をやっているか：担当科目）

・ 共通教育科目

現代社会と経済（1）（一般クラス）（1～4年選択必修科目前期2単位）、  
現代社会と経済（1）（オナーズクラス）（1～4年選択必修科目前期2単位）、  
現代社会と経済（2）（一般クラス）（1～4年選択必修科目前期2単位）、  
簿記（1）（1～4年選択科目、前期2単位）、

・ 専門科目

基礎ゼミ（1年生、必修科目、前期2単位）、  
保育実習演習Ⅱ（事前事後指導）（3年生保育士必修科目、通年1単位）、  
保育実習Ⅱ（3年生保育士必修科目集中2単位）

2. 理念（なぜやっているか：教育目標）

・ 共通教育科目については、経済が自分の生活の中の身近なものであることに気づき、経済用語を理解し、自分の日々の生活の中でその経済活動を行っていることや身近なものの経済事象を理解し、生活に生かすことを目的としている。

・ 専門科目については、学生が子どもや利用者さんを含めた対象者に対する制度や政策を理解し、さらに子どもや利用者さんを巡る現代の問題について理解し、事例を通して保育士としてその問題について必要な知識や方法を考え保育士としての役割や保育所の役割機能そして、保育所を巡る専門機関や専門職との連携について考え学ぶ機会を提供することである。

3. 方法（どのようにやっているか：実践の工夫）

・ 共通教育科目

前期のオンライン授業では、経済事情等を事例を含めながら解説し、学生がイメージしやすいように、イラストや図表を用いて伝えた。特に学生の生活の中から身近なものを事例として取り上げることで、経済事象をわかりやすく伝えた。課題は、毎回の授業のない内容を振り返る内容とし、さらに自分で自分の住んでいる自治体のことを調べる等、身近なものを調べて興味を持つような形とした。

・ 専門科目

学生がイメージを持って具体的に学まなべるように、解説及びメディアによる事例の紹介を行っている。また、子どもや利用者さんの理解を深めるために事例研究を行い、その内容を共有することで、他者の考えや他者を受け入れ、支援方法を気づくようにしている。

#### 4. 成果（どうだったか：結果と評価）

共通教育科目については、経済を身近に感じる教材（エビデンス2）を利用し、さらに課題の解答を共有し、学びを再確認する（エビデンス1）するとともに、自分で自分の住んでいる市町村の合併の歴史や施策の取り組みなどを調べることにより、自分のまちに興味をもち、自分で調べる力を養った（エビデンス1）

専門科目については、課題の解答を共有し、他者の意見も知ることで、自主的に学び、自分の表現力を磨き、他者の意見を理解しようとしていることが確認できた。（エビデンス1）。レジュメを作成し、重要な部分を明確にし、事例を説明しながら学生の理解を深められるようにした。（エビデンス2）

#### 5. 今後の目標（これからどうするか）

共通教育科目は、学生がホームページ等を用いて、自分の住んでいる自治体や保育所が取り組んでいる内容を調べ、学びと自分の住んでいる自治体の取り組みを理解し、より課題がより具体的になるように促す。

専門教育科目は、学生同士が授業時間外に子どもを取り巻く課題や保育所や施設の役割・機能を相談、議論し、資料収集、データ収集（ラーニング・コモンズ）し、事前事後学修をより具体的に促すように促す。

#### 6. エビデンスとなるもの（資料の種類などの名称）

1. 課題（非公開）
2. 授業のレジュメ

## ティーチングポートフォリオ

幼児教育学科 古山 律子

(記入日：2020年9月25日)

### 1. 教育の責任 (何をやっているか：担当科目)

幼稚園教諭一種免許状および保育士資格取得に係る科目、および学科科目を担当している。保育者（幼稚園教諭、保育教諭、保育士）養成における音楽表現全般に関する教育を担当している。

#### 【免許・資格に係る科目】

- 「保育内容の理解と方法（音楽）」（1年次 通年 保育士必修・教職選択必修科目 2単位 演習）
- 「幼児音楽指導法」（3,4年次 前期 保育士・教職選択必修科目 2単位 演習）
- 「保育内容表現の指導法」（2年次 後期 保育士・教職必修科目 2単位 演習）
- 「教育実習演習（事前・事後指導）」（4年次 前期 教職必修科目 1単位 演習）
- 「教育実習」（3,4年次 集中 教職必修科目 4単位 実習）
- 「実習訪問」

#### 【学科科目】

- 「ピアノ演習」統括（2年次 通年 学科の独自科目 2単位 演習）
- 「弾き歌い演習」統括（3年次 通年 学科の独自科目 2単位 演習）
- 「幼児教育体験学習」（1年次 通年 必修科目 2単位 演習）
- 「卒業研究演習」（3年次 通年 必修科目 4単位 演習）
- 「卒業研究」（4年次 通年 必修科目 2単位 演習）

### 2. 理念 (なぜやっているか：教育目標)

本学科が掲げる「子どもと共に生きることができる自覚ある保育者」「すべてのく人・もの・こと」に感謝できる保育者を育成することを目指し、教育を行っている。さらに、保育者養成における音楽表現教育に携わるなかで、「みずみずしい感性と豊かな表現力を兼ね備えた幼稚園教諭・保育士となる人材を育成する」ことを目標としている。専門的知識、実践的技能習得のために、学生が主体となる演習を実施している。

### 3. 方法 (どのようにやっているか：実践の工夫)

専門的知識、実践的技能習得のために、学生が主体となる演習、理論的背景と実践を両輪で捉える演習を実施している。

「保育内容の理解と方法（音楽）」（1年次 通年 保育士必修・教職選択必修科目 2単位 演習）では、子どもの音楽表現に関する理解を深めるために保育内容の領域「表現」の専門的事項である音楽表現に関するテキスト『コンパス音楽表現』建帛社（2020年4月発行）を共著で執筆し採用した。新要領・指針に対応する学修内容を確認し、教育の質を上げていくことを実践している。ピアノ・歌唱の実技習得に関しては、新型コロナウイルス感染拡大に伴い、オンライ

ン学修において困難を極めた。しかしながら、ピアノ実技モデルの動画配信、Teams による双方向型学習を取り入れ、学習意欲の向上につながるよう工夫した。

「幼児音楽指導法」(3,4年次 前期 保育士・教職選択必修科目2単位 演習)においては、音楽的発達への理解の促進、乳幼児を取り巻く音環境への関心拡大につながるよう、動画を含む資料配信を丁寧に行った。受講生は実技の習得にも積極的に取り組み、双方向型学習による実技発表を実施するなど、主体的・対話的となる授業実践を工夫し、学生の理解力、実践力向上に役立てた。

「卒業研究演習」(3年次 通年 必修科目4単位 演習)では、子ども・芸術・表現をキーワードとして、国内外における表現教育に関する短い動画の視聴、およびレポート作成を実施した。学生のレポートへのコメント、評価を毎回実施し記述力の向上を目指して工夫した。

#### 4. 成果(どうだったか:結果と評価)

「保育内容の理解と方法(音楽)」では、学生がテキストを通じた子どもの音楽行動に対する関心を深めて意見や質問が活発に記録されている(エビデンス1)。一方、歌唱およびピアノ演奏では技能の習得にオンライン授業での困難があり、例年よりも進度が遅れている。Teams で配信している見本動画をさらに増やしていくとともに、対面授業以外でのチャットによる質問への回答を継続する。

「幼児音楽指導法」では、実技と理論的背景の連環が学生のポートフォリオの記述にもみられている。理解力・実践力が向上した(エビデンス2)。

「卒業研究演習」では、国内外の表現教育に関する短い動画視聴およびレポート作成により、文章表現力の向上、考察力の深まりが記録されている(エビデンス3)。

#### 5. 今後の目標(これからどうするか)

新カリキュラム「保育内容表現の指導法」において、教職・保育士必修科目を担当している。音楽教育に限らず、幅広く乳幼児の表現を捉える重要な科目であり、新要領・指針に対応する学修内容を確認し、後期授業の展開・工夫につなげていきたい。Teams の更なる有効活用等、教員としてのICT能力を向上させたい。

#### 6. エビデンスとなるもの(資料の種類などの名称)

- 1 学生の授業内ポートフォリオ(非公開)  
Teams 配信資料、配信動画、チャットでの質問への回答(非公開)  
テキスト『コンパス音楽表現』(2020) 建帛社
- 2 学生の授業内ポートフォリオ(非公開)  
Teams 配信資料、配信動画、チャットでの質問への回答(非公開)  
テキスト『わらべうた遊び55』ひかりのくに
- 3 学生の授業内レポート(非公開)  
Teams 配信資料、チャットでの質問への回答(非公開)

## ティーチング・ポートフォリオ

国谷 直己

(記入日：2019年9月30日)

### 1 教育の責任 (何をやっているか：担当科目)

幼稚園教諭一種免許状、保育士資格取得に関する科目及び学科科目を担当している。

- 基礎ゼミナール (1年前期必修科目 2単位)
- 卒業研究演習 (3年通年必修科目 4単位)
- 卒業研究 (4年通年必修科目 4単位)
- 保育実習演習Ⅰ (事前・事後指導) (2年後期選択必修科目 1単位)
- 保育実習演習Ⅲ (事前・事後指導) (3年通年選択必修科目 1単位)
- 幼児教育体験学習 (1年通年必修科目 2単位)
- 教育史 (2～4年後期選択必修科目 2単位)
- 教育原理 (1年後期選択必修科目 2単位)
- 教職教養演習 (3) (3年半期選択必修科目 3単位)
- 共通教育特別講座 (2) (1～4年半期共通教育科目 2単位)
- 教育・保育実習訪問など。

### 2 理念 (なぜやっているか：教育目標)

私の教育理念・目標は、学生が教育学における知識や実践を多角的に考察し、それらを自律的に獲得する姿勢を身に付けることである。したがって、教育の原理、理念や歴史に関する知識を座学のみで獲得することを目標とはせず、学生の被教育者体験を踏まえて現在のさまざまな教育・保育問題に対して主体的に行動できる実践力を育成したいと考えている。

### 3 方法 (どのようにやっているか：実践の工夫)

基礎ゼミナールでは、大学生としての4年間の学生生活をイメージできるように一日のスケジュール、一週間のスケジュールをそれぞれ詳細に記入できるワークシートを作成させ、授業外における学修の重要性を促した。さらに、大学における学習の基礎として欠かすことのできない「読む力」「まとめる力」「発信する力」を養うために、現代の教育・保育問題についての調査、発表、全体討議を行った(オンライン授業だったため大きな制限があったように思われる)。

卒業研究演習においても、次年度に執筆する卒業論文を見据えて、学生の文章力を向上させるために「読む力」「要約する力」「発信する力」の育成に取り組んだ。調査、発表、全体討議を行ったが、発言が一定の学生に偏った傾向を感じた。対話型授業においては、学生の表情を観察しながらディスカッションできるので、ゼミナールとしての授業内容を向上させたい。

教育原理および教育史では、知識と実践が融合することを目標に、学生自身の被教育者体

験と教育の理念や思想が融合するような授業を目指している（後期）。また、学生の主体的・対話的かつ深い学びを促進するために、一方的な知識注入型の授業を避け、教員から質問し個人が「考える」機会を増やそうと試みている（グループ・ディスカッションなどのアクティビティを取り入れた授業を目標としているが、新型コロナウイルス禍の対面授業では限りがあるので、学生同士が接近しないような対応をしている）。

#### 4 成果（どうだったか：結果と評価）

基礎ゼミナールにおいては、学生がレポートとは何か、またその書き方を理解できた。卒業研究演習では、まだ基礎的な課題を達成したに過ぎないが、卒業論文執筆に向けたレベルアップを図る必要がある。保育実習演習Ⅰでは、学生にとって最初の実習（幼児体験学習の1日実習を除いて）なので、実習へ臨む態度を重視して指導した。保育実習演習Ⅲでは、学生にとって3回目の実習なので、これまでの振り返りを重視して指導した。

#### 5 今後の目標（これからどうするか）

新型コロナウイルス禍において、授業と保育・教育実習が通常の前期から後期へとずれ込んでいる影響から、後期の授業に対して大きな影響を与えている。その配慮が困難だが、学生に対して不利益にならないよう取り組んでいる（「教育史」「卒業研究演習」「卒業研究」「教職教養演習（3）」など）。

特に「卒業研究」では、卒業論文の執筆に向けて3年次秋学期から段階的に進めていたにもかかわらず、新型コロナウイルスの影響を多大に受けている。テーマ設定、先行研究の検索、資料収集、データ収集分析などを指導し、主体的に取り組んでいるか成果報告の場を頻繁に設けることで、学生の学修に対する意識を継続させたい。

#### 6 エビデンスとなるもの（資料の種類などの名称）

- 1 ワークシート、レポート（非公開）
- 2 レポート（非公開）
- 3 テキスト

基礎ゼミナール：隔週技術研究会著『知へのステップ』くろしお出版、2019年。

教育史：宇内一文編著『学校と教育の思想と歴史』三恵社、2018年